

北見赤十字病院 がんサロン ほほえみ

ほほえみ 通信 Vol 190

2025/11/27
発行

第190回 ほほえみ 開催

11月19日(水)第190回 ほほえみを開催しました。今回は5名の方に参加して頂きました。
参加に際しましては、感染予防対策のためマスクの着用と手指消毒のお願いを
させていただいておりますので、ご協力をお願い致します。

次回のほほえみは、12/17(水)14時から16時まで
本館3階 特別会議室での開催となりますのでご参加下さい。
【がんサロン事務局より】

(がん体験記)

『退院してからが本当の闘い』

がんの手術後、入院中は意外と元気。

「これから長い治療が始まるけれど・・・治療の副作用がどれくらい出るのか不安はあるけれど・・・でも私、大丈夫そう」

そう思っていた。でも違った。退院してからが本当の“がんとの闘い”だった。

私は乳がん。なので、術後はまな板やフライパンが持てなかった。洗濯物を干すのも容易ではない。これまで普通にやってきたことがまるでできないのだ。自己嫌悪や劣等感でいっぱいだった。

なにより孤独感に襲われた。入院中はほかの患者さんもいる。看護師さんもいる。が、退院すると一人になる時間が多くなる。そうなるとうまくないことばかり考える。それは再発の不安だ。そして現実的な問題として、今後の仕事や決して「安い」とは言えない治療費や検査代がかかること。様々なものが一気にのしかかってきた。

『“がん”は手術して終わりではない』と聞く。それは長く続く治療や再発の不安はもちろん、身体の問題、心の問題、生活の問題・・・とたくさんあることに気づかされた。“がん”は身体だけではなく、心にも入り込む病なのだ。

せめて治療が終わったら、“完治”と言えるようになってほしい。

せめて、もう少し治療費が安くなってくれたら・・・。

(北海道／女性／乳がん／がん患者本人)